

ドイツ語

(1) ドイツ語学修の目安.....	1
(2) 開講科目紹介.....	2
(3) 学習動機別の履修モデル.....	3
(4) 大学の留学制度を使ってドイツ語圏に留学しよう.....	4
(5) おすすめの初級組み合わせ.....	5

(1) ドイツ語学修の目安

	到達のポイント	習得する語彙数の目安	資格検定などで対応するレベル
初級	ドイツ語の基本的な文法・語彙を習得し、その基本的な運用に習熟する。また日本語や英語との対照から、ドイツ語ならではの表現方法に着目し、その背後にあるドイツ語的な発想(認知的枠組み)・思考・価値観・文化のありようを理解する。 【読む】日常的・身近な分野について平易な文章なら比較的容易に読解できる。 【書く】学習した基本的文法・語彙を用いてごく簡単な内容のメールや手紙を書ける。 【話す・聞く】簡単な内容なら口頭で表現できる。また相手が簡単な構文・語彙でゆっくり話す場合であれば理解でき、簡単なコミュニケーションがとれる。	600	ドイツ語技能検定試験 4 級合格程度 (ゲーテ/GER/CEFR A1:スタートドイツ語 1 程度)
中級	ドイツ語を用いて、かなりの程度の実践ができるようにする。ドイツ語圏の国々の文化・社会・歴史についての知識・理解を一層深める。(夏休みにドイツでの短期語学研修に参加する機会を提供する。また、そのための準備をする。) 【読む】辞書を用いて、日常・社会生活のテーマに関する比較的高度な内容・構文の文章を読解できる。またウェブなどで記事の概要を把握でき、学習・研究に際して基本的な資料を使える。 【書く】やや長めのメールや手紙を書ける。 【話す・聞く】ドイツ語圏の国々に旅行した際に、基本的な意思疎通ができる。日常的话题について平易なドイツ語で明瞭に話されれば理解できる。	1000	ドイツ語技能検定試験3 級合格程度 (ゲーテ/GER/CEFR A2 程度)
上級	ドイツ語を多様な状況・テキストにおいてかなり自由に使いこなせる。また大学院などで、専門研究のための文献を扱える。 【読む】専門的学術書・論文など高度な内容・構文のテキストも、辞書を用いて理解できる。 【書く】前後の文脈との整合性、文体効果を考慮しつつ、より内容の豊かな文章を書ける。 【話す・聞く】日常生活や社会生活についての馴染みのある話題についてならば、ほぼ支障なく口頭で意見交換、質疑応答などのコミュニケーションがとれる。	3000	ドイツ語技能検定試験2 級合格程度 (ゲーテ/GER/CEFR B1 以上)

(2) 開講科目紹介

◆初級（総合）Ⅰ、Ⅱ

週2回でみっちり学ぶコース。法学部・社会学部1年生必修。商学部・経済学部の学生には自由選択科目で、2年生や3年生からの履修も、またためしにⅠ（半年）だけ履修することも可能。

◆初級（速修）

上記「（総合）」の半分の授業回数でドイツ語初級文法・実践をひとわり学ぶコース。所属学部に関係なく自由選択科目。通年週2回授業を履修する余裕はないけれどドイツ語を一旦は学びたい、という人に。秋から学びたい場合のために秋にはじまるⅠも開講。ためしにⅠ（半年）だけ履修することも可能。またドイツ語では週2回、7週間14回で完結する初級速修も開講している

ⅠとⅡを継続する履修（推奨）

春（週2回）	夏（週2回）	または	秋（週2回）	冬（週2回）
初級（速修）Ⅰ	初級（速修）Ⅱ		初級（速修）Ⅰ	初級（速修）Ⅱ

または

春夏（週1回）	秋冬（週1回）
初級（速修）Ⅰ	初級（速修）Ⅱ

ⅠとⅡの間に空白期がある履修の例（これも可能です。）

春夏（週1回）		冬（週2回）
初級（速修）Ⅰ	>>>	初級（速修）Ⅱ

春（週2回）		秋冬（週1回）
初級（速修）Ⅰ	>>>	初級（速修）Ⅱ

春（週2回）			冬（週2回）
初級（速修）Ⅰ	>>>	>>>	初級（速修）Ⅱ

秋冬（週1回）	
初級（速修）Ⅰ	>>> 次年度のⅡへ

けれどもこれら初級（速修）の履修は年間計4単位。ドイツ語の世界を広く浅く体験できるとはいえ、「（総合）」（8単位）に比べて学修時間数をはるかに少ないです。そこでこれらを組み合わせ、復習を兼ねて、春Ⅰ夏Ⅱ（週2回）＋秋冬Ⅱ（週1回）、春夏Ⅰ（週1回）＋秋Ⅰ冬Ⅱ（週2回）、または春夏Ⅰ（週1回）＋秋冬（総合）Ⅱ（週2回）のように、上記「（総合）Ⅰ・Ⅱ」（週2回通年）に学修時間を近づけるとよいでしょう（これらの場合6単位）。

※総合と速修、また複数の速修の組み合わせにより、同レベルの授業を複数履修することになりますが、授業内容は教員によって少しずつ違いますので、復習しながら複数の「初級」に取り組んでください。

◆中級

中級は、科目としては「コミュニケーション」「読解」等に分かれていませんが、実践系のものと読解系のものがあります。シラバスを見て自分に合った授業を選んでください。いずれも、春夏学期・秋冬学期それぞれひとまとまりで開講する週1回科目です。なお実践的な面を含めた総合力を高めるための中級科目は何と言っても夏期語学研修（事前授業1単位、研修6単位）です。参加者の満足度が毎年高いです。初級を1年間終えた2年生を想定していますが、意欲のある1年生が参加した実績もあります。4月から水曜4限隔週開講の準備授業に出席してください。報告書など詳細は [一橋大学 ドイツ語 海外短期語学研修](#) のページで。

◆上級

どちらかといえば読解系のものが多いです。シラバスを見て自分に合った授業を選んでください。

(3) 学習動機別の履修モデル

次に挙げる表で「1年次」とは必ずしも「1年生のとき」という意味ではありません。2・3年生からでもドイツ語を学べます。例えば法・社1年生で、1年次必修で別の言語を履修し、2年生からドイツ語も学びたい人、また商・経の学生で、1年生のときは余裕がなかったけれど2・3年生になって少し余裕ができたから何か新しい言語を学びたい人などがドイツ語を学びはじめる年も「1年次」です。同様に「春夏」「秋冬」も、「最初の半年」「次の半年」の意味だと思ってください。

学習動機	A 大学院進学や長期留学も視野にいれ、専門(研究・仕事)でドイツ語を活用したい。(「みっちり堪能」)
効果的な履修モデル	【1年次】 春夏:「初級(総合)Ⅰ」(週2回)+「初級(速修)Ⅰ」(週1回) 秋冬:「初級(総合)Ⅱ」+「初級(速修)Ⅱ」 ※ 同じレベルの授業を複数履修することになりますが、授業内容は教員によって少しずつ違いますので、復習しながら複数の「初級」に取り組んでください。 【2年次】中級2～3コマを履修。コミュニケーションと読解の授業をなるべくバランスよく選択する。夏期語学研修に参加する。 【3～4年次】上級2コマ程度、およびドイツ語を扱う後期ゼミを履修。
学習動機	B 将来ドイツ語を専門的に用いるかどうか分からないが、旅行などでは役に立てたい。または研究や仕事の資料調査で概要を把握できるくらいにはなりたい。(「ちゃんと満足」)
効果的な履修モデル	【1年次】 1) 春夏「初級(総合)Ⅰ」(週2回) 秋冬「初級(総合)Ⅱ」 2) 春夏「初級(速修)Ⅰ・Ⅱ」(週2回) 秋冬「初級(速修)Ⅱ」(週1回)×2。 ※ 同じレベルの授業を複数履修することになりますが、授業内容は教員によって少しずつ違いますので、復習しながら複数の「初級」に取り組んでください。 【2年次】中級2コマを履修。会話重視するか資料調査・読解力を重視するかによって授業を選択。できれば夏期語学研修に参加。 【3～4年次】上級1コマ程度、またはドイツ語を扱う後期ゼミを履修。
学習動機	C ドイツ語圏の歴史や文化に興味があり、ドイツ語にも直接触れてみたい。(「あっさり満足」)
効果的な履修モデル	【1年次】 1) 春夏「初級(総合)Ⅰ」(週2回) 秋冬「初級(速修)Ⅱ」(週1回) 2) 春夏「初級(速修)Ⅰ・Ⅱ」(週2回) 秋冬「初級(速修)Ⅱ」(週1回) 3) 春夏「初級(速修)Ⅰ」(週1回) 秋冬「初級(速修)Ⅰ・Ⅱ」(週2回)または「初級(総合)Ⅱ」(週2回) ※ 同じレベルの授業を複数履修することになりますが、授業内容は教員によって少しずつ違いますので、復習しながら複数の「初級」に取り組んでください。 【2年次】1年次の学習の結果、より深く学んでみたい気持ちになったら、中級1コマ以上を履修。人文学科目のうちドイツ語圏に関わる講義(ドイツ語圏地域文化論など)を1～2コマ履修するなど。 【3～4年次】中級を継続して履修、さらには上級に挑戦。
学習動機	D 特にドイツやドイツ語に深い関心があるわけではないが、余裕があれば、いろいろな言語に触れてみたい気持ちはある。(「きっちり入門」「ささっとお試し」「のんびりお試し」)
効果的な履修モデル	【1年次】初級(総合)Ⅰを履修、あるいは、初級(速修)Ⅰを半年、または7週1学期(春・秋)履修。興味をもてたら、続いて初級(総合)Ⅱあるいは初級(速修)Ⅱを履修。→Ⅱを履修することで上記履修モデルCやBに。 【2年次】より深く学んでみたい気持ちになったら、中級1～2コマを履修。 【3～4年次】さらに学びたい場合は、継続して中級を履修、さらには上級に挑戦。

（４）大学の留学制度を使ってドイツ語圏に留学しよう

一橋大学には [海外派遣留学制度](#) という、学部在学中における１年間の海外留学を支援する、学生にたいへん有利な制度が整っています。英語圏はもとより、ドイツ語をはじめ大学入学してから学修を始めた言語（初修外国語）の地域の [交流協定校](#) が多数あります。ドイツ語圏の協定校は以下です。

ウィーン経済大学大学
オスナブリュック大学
ケルン大学
ザンクトガレン大学
ハイデルベルク大学
ハノーファー大学経済経営学部
フランクフルト・ゲーテ大学
ベルリン・フンボルト大学
ベルリン自由大学
マンハイム大学
ミュンヘン・ルートヴィヒ・マクシミリアン大学

ミュンヘンに留学したAさんの場合

次に、大学に入ってドイツ語を学び始め、2018 年度にこの制度を使ってドイツのミュンヘン大学に留学したAさんの履修や留学準備について見てみましょう。

Aさんは入学前後から留学について漠然と関心を持っていました。やや英語に苦手意識があったことも初修外国語への学修意欲に繋がったかもしれません。入学時には選択必修の週２コマ授業（現「初級（総合）」）でドイツ語を選ぶとともに、その理解を深めるため選択科目（現「初級（速修）」）を履修しました。そして２年次夏の [Aachen 短期語学留学](#)（１ヶ月弱）が、ドイツへの関心を深める契機になりました。一橋大学の海外派遣留学制度を利用してドイツの大学に留学する条件として、一定のGPA 値のほか外国語力を示す必要があります。英語の成績を示す方法もありますが、Aさんは [独検](#) を目指すことにし、２年次の終わりまでに３級合格、３年次の夏前に留学の応募が可能になりました。４年次１年間でミュンヘンで過ごし、帰国した５年目に卒論を執筆・卒業しました。この制度での留学期間１年は在籍期間に含まれますので４年間で学部卒業も可能です。ただ、３・４年の学修について、とくにゼミの様子がわからない前期課程（１・２年次）のうちに、留学を含む４年卒業の計画を立てることはリスクがあるかもしれません（希望する（後期）ゼミナールの先生に早くから相談することはよいかもしれません）。

Aさんのドイツ語学修のあゆみ

2015 年度：法学部入学、ドイツ語（週２回通年、現「ドイツ語初級（総合）」）に加えて初級B（週１回通年、現「ドイツ語初級（実践）」）を履修。独検４級に合格したが、独検３級は受験したものの不合格。

2016 年度：ドイツ語中級を春夏学期、加えてAachen 短期語学留学（８月）、さらに秋冬学期にドイツ語中級と上級（それぞれ週１回）を履修。独検３級合格。

2017 年度：６月までに一橋大学海外派遣留学の申し込み。ゼミ以外の単位を修得完了。

2018 年春からミュンヘン大学（一橋大の学生交流協定校）で１年間政治学を学ぶ。

2019 年度：オーストリア＝ハンガリーに関する論文を提出して卒業

関連リンク

一橋大学海外派遣留学制度のページ [トップ](#)

一橋大学海外派遣留学制度、ドイツ語圏を含めたほか各国の協定校一覧

応募条件、派遣人数等、一橋大学海外派遣留学制度2018 年度第１回募集資料一

[橋大学Aachen 短期語学留学](#)（１ヶ月弱、上記「海外派遣留学制度」とは別）[独](#)

[検](#) - ドイツ語技能検定試験

(5) おすすめの初級組み合わせ

みっちり堪能コース(週3回通年 12単位): 初級(総合)Ⅰ・Ⅱ(週2回)+初級(速修)Ⅰ・Ⅱ(週1回)

ちゃんと満足コース(週2回通年 8単位):

例: 初級(総合)Ⅰ・Ⅱ(週2回通年)

例: 初級(速修)Ⅰ・Ⅱ(週2回半年)と、次以降の半年で初級(速修)Ⅱを複数(週2回秋冬)

あっさり満足コース(週2.5回通年 6単位):

例: 初級(総合)Ⅰ(週2回春夏)と、次以降の半年で初級(速修)Ⅱ(週1回秋冬または週2回夏か冬=7週)

例: 初級(速修)Ⅰ・Ⅱ(週2回春夏または秋冬)と、次以降の半年で初級(速修)Ⅱ(週1回秋冬または週2回夏か冬=7週)

例: 初級(速修)Ⅰ(週2回春か秋=7週)と、次以降の半年で初級(総合)Ⅱ(週2回秋冬)

きっちり入門コース(週2回半年 4単位): 初級(総合)Ⅰ(週2回春夏)

ささっとお試しコース(週2回1学期=7週 2単位): 初級(速修)Ⅰ(週2回春か秋)

のんびりお試しコース(週1回半年 2単位): 初級(速修)Ⅰ(週1回春夏)